

# 平成23年 ローソクボツケ分布量調査結果速報 (1)

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 電話：0162-32-7166

- ・ 稚内水試では試験調査船北洋丸により、2003年以降、毎年9～11月に稚内ノース場(811, 812, 813漁区)で着底トロールによるローソクボツケ(0歳魚)の分布量調査を行っています(図1)。この調査の目的は、新しく資源として加わる0歳魚の資源豊度を早期に評価し、資源の将来予測に役立てることです。調査では各漁区で原則2回の曳網を行い、その採集量から評価しています。2011年9月7～9日および27～29日に第1次(9月)および第2次(10月)ローソクボツケ分布量調査を実施しましたので、その概況を報告します。
- ・ 図2に2009年から2011年までに稚内ノース場で採集されたホツケの体長組成を示しました。今年は1歳魚以上の大型魚が少なく、採集されたホツケのほとんどが体長24cm未満のローソクボツケ(0歳魚;2011年級)で占められていました。曳網1マイル当たりのローソクボツケの平均漁獲量(kg/N.M.)は、9月は46.2と2003年に次いで4番目に高い値でしたが、10月は7.1と3番目に低い値でした(表1)。9月以降、漁獲が好調な地区も見られますが、本トロール調査の結果からは、2011年級の資源豊度は1985年以降で資源豊度が最も低いと推定されている2010年級よりは高いものの、過去9年間の中では決して高い年級群ではないと思われます。
- ・ なお、10月の海底付近(64～114m)の平均水温は6.2～7.6℃と昨年にくらべて1.5～2℃低く、低水温が漁場への来遊に影響している可能性も考えられますが(図3)、道北海域のホツケの資源状態は2008年以降急激に悪化していることから(図4)、産卵親魚をとり残すためにも、ローソクボツケの漁獲については、十分な注意が必要と考えます。
- ・ 今後は各種漁業における漁獲状況や水温の状況に注視しながら調査を継続したいと思います。

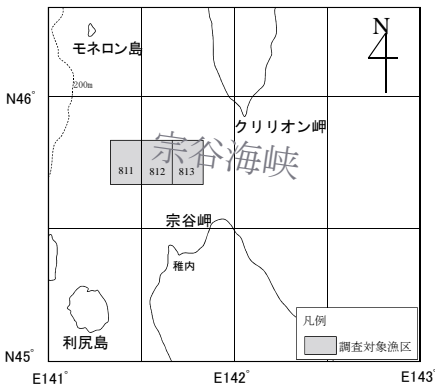


図1. 調査海域

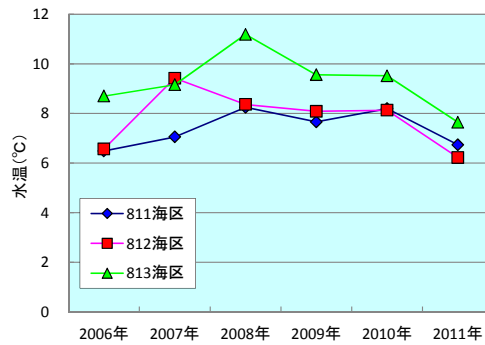
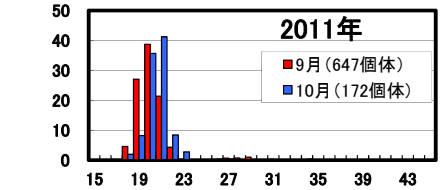
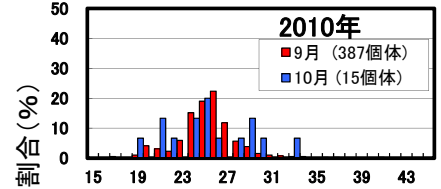
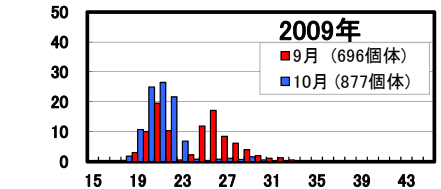


図3. 10月の底層水温



体長(cm)

表1 着底トロール1マイル当たりの0歳魚の平均採集量(kg/N.M)

調査年	9月	10月	11月
2003年	71.0	147.7	調査未実施
2004年	1.6	22.8	調査未実施
2005年	114.2	185.9	調査未実施
2006年	0	0.1	312.6
2007年	23.6	213.6	121.5
2008年	19.9	18.4	794.9
2009年	75.3	107.6	218.4
2010年	5.1	0.1	6.8
<b>2011年</b>	<b>46.2</b>	<b>7.1</b>	

図2. 採集されたホツケの体長組成

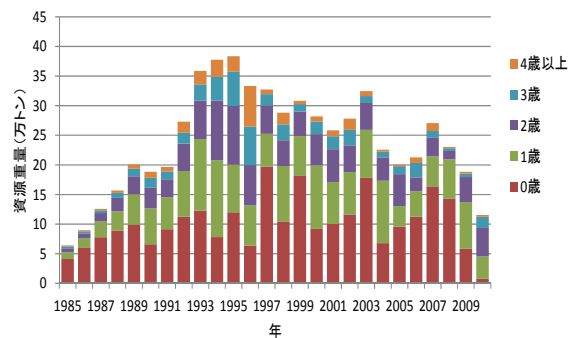


図4. 道北海域におけるホツケの資源重量の推移